

計画期間：令和3年度～令和12年度

1、水道事業経営戦略策定の趣旨

朝倉市の水道は、甘木地区が昭和45年に水道事業経営の認可を受け、その後、上水道への依存が大きくなったこと及び未普及地域の水道用水供給の要望に必ずべく、福岡県南広域水道企業団からの受水を確保し施設整備を進めてきました。

また、杷木地区の水道は、平成12年に水道事業として認可を受け、杷木簡易水道と志波簡易水道を統合整備したのち、平成22年に朝倉市水道事業として経営統合を経て現在に至ります。

本市水道事業は、小石原川ダム完成に伴い福岡県南広域水道企業団からの受水量が2,100m³/日から7,700m³/日へ増量されることを受け、給水区域の拡張、給水人口及び給水量の増加等に係る認可変更手続きを進めており、水源の確保による安定供給を目指し、市民の皆様へ安全で安心な水道水の供給を行っています。

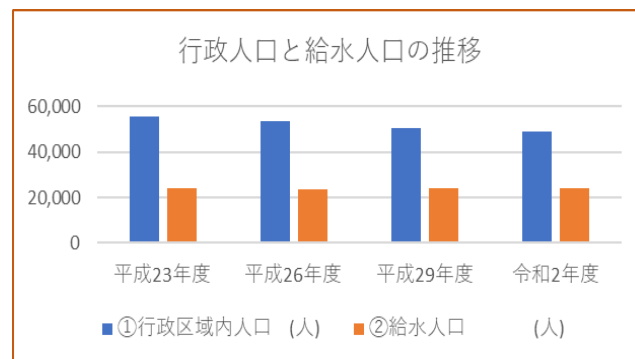
このような背景のもと、総務省より「各公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である経営戦略の策定を要請」（平成26年8月付け）、「公営企業の経営にあたっての留意事項」（平成26年8月付け）について通知がなされ、今後の水道事業の変化に対応するための「経営戦略」を策定し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むことを求めています。

本経営戦略は、本市水道ビジョンの策定に先駆け、上位計画となる「福岡県水道ビジョン」の基本理念である「安全」・「強靱」・「持続」の3つの観点を基本とし、本水道事業の安定的な経営を推進するために策定するものです。

2、水道事業の課題

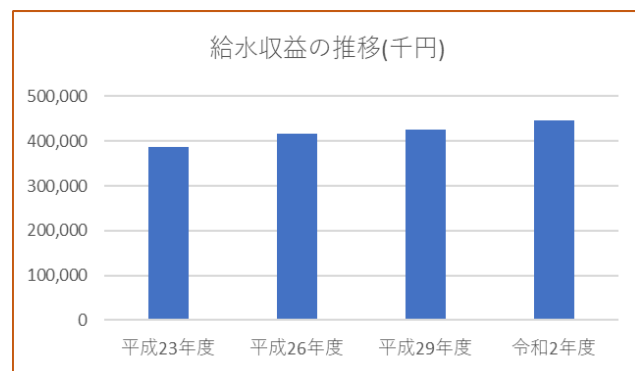
① 給水人口の増減

給水区域拡張を計画していますが、行政人口の減少が見込まれること、拡張工事の計画が未確定であることから、給水人口の増減が不透明な水道経営環境となっています。



② 給水収益の増減

給水人口の増加が見込めないことに加え、企業団からの受水量5,600m³/日の増量に伴い、給水収益の増減が見込みにくい中で、収益的支出は約1億円の支出増加となっています。



③ 水道施設の老朽化

令和2年度現在、浄水場等関連施設の経年化資産は全体の約56%、管路施設は約30%です。今後は健全化資産の確保に向けて計画的な更新が必要となっています。

3、経営の基本方針

経営理念：安全な水を安定的に供給し続けることができる水道

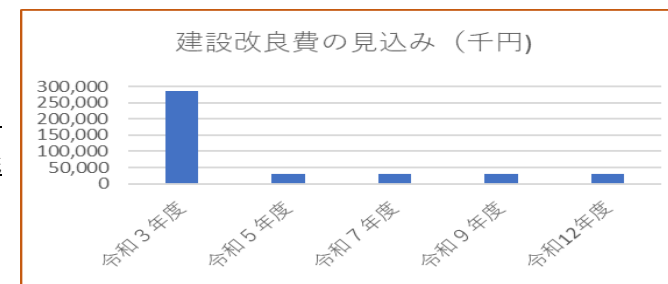
基本方針 (安全) 水道水の安全性の確保 ● 水質管理体制の充実 ● 水質管理水準の向上
 (強靱) 災害における給水の確実性の確保 ● 災害に強い水道施設の構築及び危機管理体制の強化
 (持続) 給水体制の持続性の確保 ● 水道施設の計画的、効率的な維持管理・更新
 ● 水道技術の継承 ● 健全な財政基盤の維持・向上

4、投資・財政計画

4-1、投資計画

① 建設改良費の推移

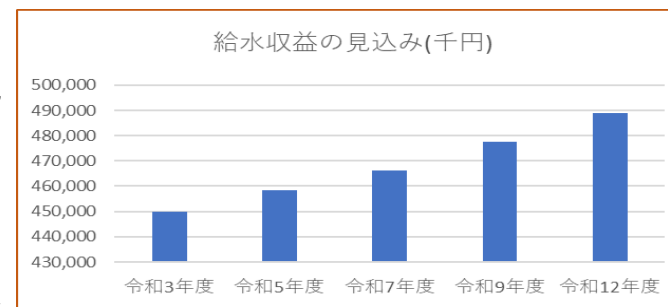
企業団受水量の増量に伴う施設整備は、拡張区域内の計画が未策定であるため、今後経営状況を考慮し協議してまいります。



4-2、財政計画

① 料金収入

今後の水道施設等の更新や経常的経費悪化などの状況によっては、水道料金の見直しの検討を行う必要があります。

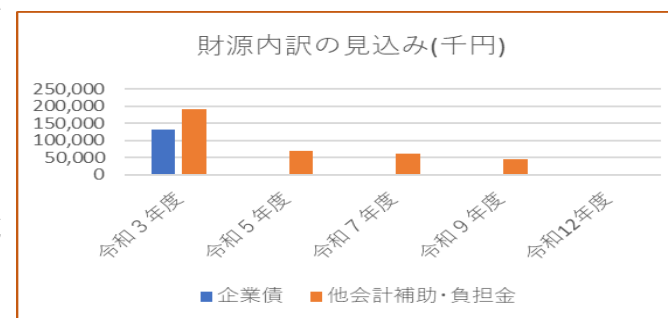


② 企業債

今後の経営状況を考慮しつつ、水道施設等の更新などの投資的経費に対する財源として、起債を検討する必要があります。

③ その他

当該期間は、建設改良費の財源に損益勘定留保資金を投入する計画ですが、拡張工事計画や更新事業の実施の際は、有効な補助金を活用します。



5、経営戦略の目標

本市水道事業経営を行ううえで、水道経営の可視化に向け次の2つの「経営管理指標」に基づき水道財政の健全化に向けたマネジメントを実践します。

- 「企業債償還残高/料金収入比率」=300%以内・・・企業債発行の抑制
- 「資金残高/給水収益(料金収入)比率」=50%以上・・・事業運営資金の確保

6、経営戦略の進捗管理

本経営戦略は、令和3年度から令和12年度までの10年間を期間としていますが、その間の事業進捗状況や経営環境等の変化に対応するためモニタリングにより随時フォローアップを行い、必要に応じて経営戦略の見直しを実施します。

